このマチに生きる

人口減少時代をどう生き延びるか
住みやすさをどう維持していくか

本町の人口減少が止まりません
今年1月末には、とうとう8千人を割り込みました
今後も人が減っていくことは避けられないかもしれません
そういった状況の中で
マチが活気を取り戻すためには
自立していくためには
今、一体、何が必要なのか…

8月21日
人口問題フォーラムを開催しました
テーマは「人口減少下における弟子屈町のまちづくり」
フォーラムで明らかになった
マチの現状と、これからの見通しを紹介します

わたしたちのマチのこれからを
あなたも一緒に考えてみませんか
今日が、その第一歩です

てしかが人口事情 過去・現在・未来

人口問題フォーラムでは、札幌市立大学デザイン学部の教授である原俊彦氏を講師に招き「弟子屈町の人口－その将来を考える」と題した講演を行っていただきました。原先生は日本人口学会の会長であり、人口推計に関する研究の第一人者。本町の第３次総合計画策定時には、アドバイザーも務めています。

講演の内容から、本町の人口動向と今後の見通しに迫ります。

原　俊彦(はら　としひこ)氏

1975年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。1977年～1982年フライブルグ大学(ドイツ)哲学部第四類に留学、社会学・政治学・経済政策専攻、社会学博士取得。帰国後、㈶エネルギー総合工学研究所(主任研究員)を経て㈱研究開発コーディネーターを設立(代表取締役)。1988年北海道東海大学国際文化学部助教授、1995年同教授、2006年から現職。

日本全体と弟子屈

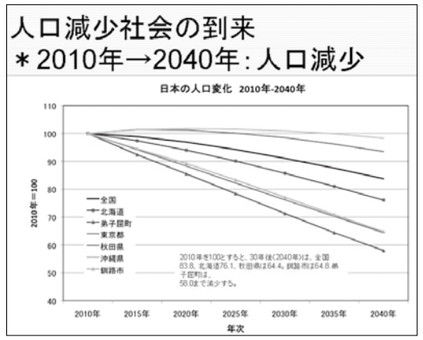
（グラフ１）は2010年の人口を100として、2040年にはどうなるかを表したもの。

全国で一番減り方が少ないのが沖縄県。それでも30年後には減少に転じる。

秋田県が全国で一番人口減少率が高い。

釧路市の人口の減り方は秋田県とほぼ同じパターン。

弟子屈町は2010年を100とすると、2040年に58.0と４割減少する。弟子屈町が全国で一番減少率が高いように見えるが、ここに弟子屈町を取り上げているだけで、もっと減少する地域はほかにもある。



（グラフ１）

弟子屈の人口動向

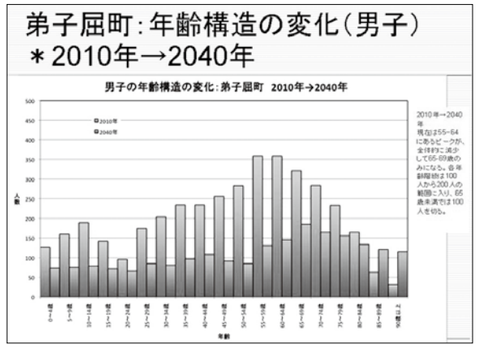
国勢調査の始まった1918(大正７)年が3,012人。1925(大正14)年に2,501人まで減り、それからどんどん人口が増える時代。戦前もずっと増加を続け、終戦間際くらいで11,300人。北海道は戦後の食糧難のときに唯一転入超過となっているが、その動きも反映されている。1960(昭和35)年の13,262人が国勢調査上のピーク。そこから減少が始まる。私が第３次総合計画の関係などで弟子屈町を訪ねたとき、10,000人を切るかという状況だった。それから20年間で、現在の8,000人くらいの規模まで減ってきた。

特に1980年代から減り方が激しくなっている。バブル経済の崩壊による日本の経済的な動向を反映していると考えてよい。(グラフ２)

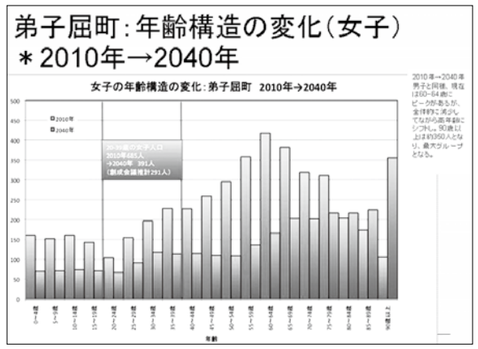
（グラフ２）

弟子屈の年齢構造

（グラフ３）



（グラフ４）



（グラフ４）の通り、女性も同様に、現在は65歳くらいのところに山があるが、2040年にはこの山がしぼんでいって上にせり上がってくる。男性と違うのは、90歳以上が350人と一番多いこと。それ以下の世代が急激に少なくなり、若者が70人くらいまでしぼんでいく。子どもを産み、育てる世代が減る。この人たちが現在と同じ率で子どもを産んだとしても、現在と同じ数は生まれてこないということ。

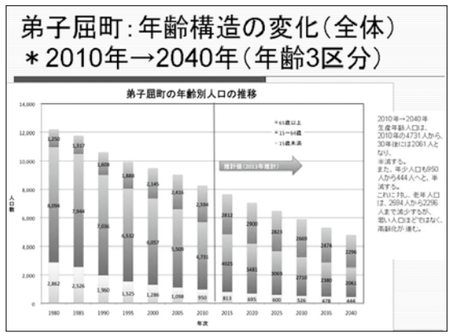
年齢構造の変化①

（グラフ５）は年齢３区分といって、実際の人口数がどう減るかということを示したもの。線が引いてあるところから先は推計。2010年現在で15歳未満の人口の数は約950人。2040年には444人と、ほぼ半減。

もっと問題なのが、生産年齢人口といって15～65歳、働いて税金を納め、子どもを育て、親の面倒を見るような人たちの数も、4,731人から2,061人に半減すること。

高齢者も、どんどん増えるのではなくて、これからは減っていく。現在の2,600人くらいから2,200人くらいまで減る。比較的減り方が遅いのは、長寿化の効果。

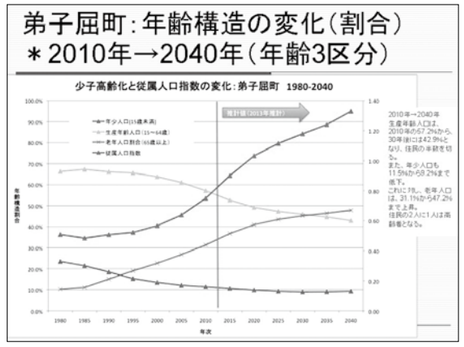
（グラフ５）



年齢構造の変化②

15歳未満の子どもの数が（グラフ６）の一番下の線。1980年くらいは20.2%、町民の５人に１人は15歳未満だったが、現在はほぼ10%。それがさらに、割り込む形になる。対して65歳以上の高齢者の比率は、どんどん高くなっている。2040年には50%に近づく。現在は30%くらい。

生産年齢人口もずっと下がっている。人口全体の40%くらいまで下がる。支え手が人口全体の４割くらいまで減ってしまうということ。



（グラフ６）

年齢別の移動動向

（グラフ７）は、どの年齢で、どれくらいの人が出たり入ったりしているかを表したもの。15～19歳、20～24歳、就職・進学年齢のところでマイナスが大きくなり、その後20～24歳、25～29歳で少し戻ってくる。その後さらに沈み、かなりの広い年齢、特に男性の人口流出が進んでいる。

（グラフ７）

それぞれの思い

人口が減っていく中、今後どうしていけばいいのか…
講演内容から、原先生が考える可能性と方策を紹介します。

人口が減ると何が問題か

人口が40％ほど減ると、建物も40％程度、遊休化する可能性があります。放っておくと風景が荒廃しますし、生活基盤、道路や上・下水道などがどんどん老朽化していきます。

15歳未満人口が半減する可能性があるため、保育園・幼稚園・小学校・高校の統廃合が避けられません。児童公園などの施設は、使う人がいなければ必要がなくなります。再利用か閉鎖かの選択が必要になります。そして何より、少なくなっていく子どもをどう守り、育てていくのか。そこをうまくカバーできないと、子育てができなくなり、本来なら残る人も残らなくなります。

大学進学期と家族形成期の人口流出は、現状のまま変化しないとすると非常に問題です。学生によそに行くなということは言えませんが、戻ってきてくれるような方策を考える必要があります。

高齢者が相対的に増えます。高齢者は大部分が年金生活者のため、税収が落ち込み、消費需要が低迷します。また、介護や看護といったケアを行う人の数が足りなくなります。高齢者は、自己管理で元気に暮らすということが中心になると思います。

地域存続の理由を明確に

人口が減り、高齢化が進んでいったときには、地域を持続させる必要性をはっきりさせましょう。

このままの形の地域をそのまま存続させるのは、なかなか難しいので、他の自治体との連携や統合など、多様な選択肢を選ぶ必要が出てきます。

地域の存続・機能について、地域の中で合意形成をすることが必要です。地域の機能をできるだけ集約して、維持する方向に持っていきましょう。近隣地域や上位自治体、国、民間との連携や役割分担を進めて、他に任せられるところはどんどん任せ、自分たちが本当にやらなければならないことだけに集約する必要があります。

過去の計画を見直す必要もあります。かなりの計画が、人口が増加する時期につくられたもの。人口が減少する時代に合わせて、つくり直さなければなりません。

具体的に考えられること

人口が減っていくのは避けられないので、人に来てもらわなければなりません。国際的、全国的な新産業を誘致して、就労機会を創出するという手もあるでしょう。弟子屈町には阿寒国立公園と屈斜路カルデラ、摩周カルデラという世界的な自然資源があります。夏季の冷涼な気候や冬の積雪、空気がきれいで水が透明だというのも価値があります。それでいて、通信や交通アクセスは十分に確保できるため、いろいろな産業を誘致できるかもしれません。自然保護や研究の機関を立地させ、他の地域とネットワーク化する。自然志向型のリゾート基地をつくる。医療、介護、健康志向型のリゾート基地をつくる。企業を本社ごと移転してもらって、業務を続けてもらうというのも在り得なくはない。

この場合、人は来ますが、今までとは違う人です。減少する40％分の人に来てもらうとすると、その後の人口の40％は今までいなかった人。そこまでするかどうかは皆さんが考えなければなりませんが、このまま何もしないでいれば、今いる人が今までの生活と同じ状態を維持するのが難しいのです。

自分で今後のことを選択

今後、自治は変わります。住民は今までは行政サービスの受容者でしたが、そういう時代は終わりつつあります。住民は「市民」として、その地域の主体となります。税収や歳入・歳出の責任は市民が追います。行政の役割は、市民からの委託に基づいて専門的なサービスを行う形に変化していきます。

地域をいったいどのようにするのかについて、話し合い、自分たちで選択する必要があります。

本町の人口の「これから」

- ▷人口は30年後までに４割程度少なくなる。
- ▷15歳未満の方は半減して、人口全体の10％を切る。
- ▷生産年齢人口も半減して、人口全体の４割くらいになる。
- ▷老年人口はわずかに減少するものの、50％に近づく。
- ▷年齢構造的には、男女ともほとんどの年齢階層で人口規模が縮小。女性の90歳以上だけが増加。
- ▷移動率については、大学進学期の転出超過が続く。就職期に少し転入超過があるが、あとはほぼ全年齢で転出超過が進む。

原先生の講演から

人口問題フォーラムでは「人口減少時代のまちづくり」をテーマに、公開ディスカッションも行いました。パネリストのお二人は、マチの未来についてどのように考えているのでしょうか。

人がいること、来ることが全ての活動の基本

須藤（すどう） 直武（なおたけ） さん
神奈川県横須賀市出身、東京育ち。２年間シンガポールに赴任。定年退職後、奥さまとともに美留和地区に移住。2006年から町移住アドバイザー。

定年退職後、自然を相手にゆっくり生活してみたいという思いから移住してきました。なぜ弟子屈町か。

北海道全体から見れば、自然の豊かさは共通項ですが、弟子屈町は東京23区くらいの面積でありながら、意外と変化が多いマチだというのが魅力でした。そして土地が非常に安い。友人や親戚が多い東京都とのアクセスがいい。冬に晴天が多い。温泉が豊富で費用もリーズナブル。このあたりがポイントとなりました。

弟子屈町は酪農と畑作を中心とした農業の町。自然景観と調和した美しさを保った町であるべきです。それは、観光産業と協業することでもあります。美しい景観は、観光にとって当たり前で最重要なこと。私たちが観光産業に従事している意識で行動することが重要です。また景観の整備は、建物など外観上の統一も大きなポイントだと思います。時間のかかる問題ですが、町の最重要政策として考えていってほしいですね。こうした努力を重ねて、マチとしての魅力をつくり上げ、マチを訪れる人たちや移住希望者に「住んでみたい」という気持ちを持たせること。弟子屈町は、それを実行できる素地を持っていると感じています。

さらに、通信環境の良さを利用したIT産業などの誘致にももっと力を入れるべきですし、豊富な自然エネルギー、温泉や地熱を活用した美しい自然の中での生活というものも、都市住民にアピールできるのではないかと思います。

そして、開けた弟子屈町。日本人のみならず海外の人たちもどんどん受け入れるのもいいのではないでしょうか。

こうした情報を発信するため、町のホームページを含め、広報活動をもっと工夫すべきです。

人がいること、人が来ることが、全ての活動の基本ではないかと思います。これを達成するために、町民がベクトルを合わせる、力を結集する。失敗を恐れずに立ち向かう。常に前向きに、ポジティブに考えていきたいと思っています。

私も微力ながら、移住アドバイザーとして今後も協力していくつもりです。

貨幣に頼らない生活様式と本当のふるさと教育

夫が釧路川でカヌーのガイドをするため、こちらに引っ越してきました。こちらに来てから「弟子屈町の宝は何ですか」とよく聞かれます。私の答えは水。水が創り出している湖。そこから流れ出ている釧路川。川湯温泉や摩周温泉といった温泉…。水がこの町の一番の宝物です。水が創り出している風景が美しく、その中で暮らせることが喜びです。

人口減の背景・要因は少子高齢化や都市への人口流入と、いかんともしがたい流れの中で起こっていることで、今後も減り続けていくという前提で、まちづくりを考えていかなければならないと思います。

大事にしなければならないのは、少ない人口でどれだけ豊かに暮らせるかということ。人口が少なくても、住んでいる人一人一人がみんな幸せに心豊かに暮らせるようなまちづくりができたら、それが一番理想です。でも、これはなかなか難しいことだとも思います。

人が減るということは生産人口が減少するということ。担い手不足、流通の停滞などいろいろな側面が考えられますが、物価が高くなることも考えられます。北国での物価高は死活問題です。

そうした中でのまちづくりで、大切なことが二つあると思います。

一つは、貨幣に頼らない生活様式に意識を変換していくということ。市民は昔の知恵を掘り起こし、現代に合うように工夫しながら活用する。地域の中でお金やモノが循環していくような仕組みづくり、いろいろな人や新しい価値観と出会う場づくりができたらいいと思います。

政策レベルでの変換も必要です。弟子屈町には恵まれた資源がたくさんあります。これを持続可能な範囲で活用しながら、地域として持久力を高めていけたらいいと思います。

もう一つは、本当の意味でのふるさと教育。通り一遍の教科書でさっとなぞるようなものではなく、生きる力や考える力を育むものが本当のふるさと教育だと思います。時間がかかり、結果がすぐ出るものではありませんが、どんな環境でも自分の頭で考えることのできる力、判断力、行動に移せる実行力を身につけ、自己肯定感を高めることのできる教育が求められていると思います。

木名瀬（きなせ） 佐奈枝（さなえ） さん
奈良県出身。1996年に神奈川県から札友内地区に移住。ご主人、高校生と小学生の２人の息子さんの４人家族。2013年から町総合計画評価委員。

みんなが考えるこれから

これからの弟子屈町を担う若い世代は、マチをどんな風に感じているのでしょうか。各校の児童会長・生徒会長に聞いてみました。

和琴小学校 ５年
本間 由奈さん

児童会で話し合いました。弟子屈は自然豊かで、ハクチョウがやってくるところ、温泉もあり、都会ではないところがいいです。刺すような虫はちょっと苦手ですが…。

これからは、各地域や学校にプールがあって、みんなが健康に過ごせる町、犯罪のないマチになってほしいです。

川湯小学校 ６年
種田 有希君

弟子屈の自然が好きです。あと、弟子屈の人は温かいです。僕があいさつをすると、笑顔で返してくれます。家族で楽しめるような、大きなショッピングセンターがあれば、もっといいです。

これから、さらに自然豊かになって、摩周湖や屈斜路湖もきれいになり、観光客や人口が増えたらいいです。

弟子屈小学校 ６年
小濱 朋哉君

児童会のみんなで考えました。自然が多く、水や空気や食べ物がおいしいところ、温泉があるところが、弟子屈の魅力だと思います。半面、遊具のある公園や街灯が少ないのが残念です。

自然はそのままで、デパートや温泉で活性化させ、人がたくさんくるようなマチになったらいいなと思います。

昭栄小学校 ６年
三田村 優音君

町の中にも緑があるところ、地場産の食材にこだわったおいしい飲食店があるところが好きです。対して、買い物をするお店がとても少ないので、何でも町内で買えたらいいなと思います。

これからも、弟子屈の自然は減らないでいてほしいです。

奥春別小学校 ６年
守屋 陽平君

摩周湖など世界的にも有名な自然や、温泉があるところが誇りです。

ですが、移動手段が少ないところ、大きなショッピングモールなどがないところは、少し不便だなと思います。

将来、弟子屈の自然や食べ物などが世界中でもっと有名になって、今よりももっと観光客が増えてほしいです。

美留和小学校 ６年
阿部 宏紀君

弟子屈には自然がたくさんあり、摩周メロンやジャガイモなど、食べ物がおいしいところが好きです。

僕たちは地域の美化活動を行っていますが、通学路などにごみが落ちていることが多くて残念に思います。

弟子屈は環境に優しいマチになってほしいと思います。

弟子屈高校 ３年
今井 玄君

弟子屈には温泉があり、毎日、身を癒せるところが魅力です。

対してさびしいのは、市街地のメーンストリートにお店が少ないことです。将来は、町内でシャッターの閉まっている建物が減って、活気のあるマチになってほしいと思います。

川湯中学校 ３年
瀬原 彩花さん

摩周湖や屈斜路湖といった、きれいな湖があるところと、周りに豊かな森林があるところが、弟子屈町の好きなところです。

将来は、今よりももっと、地域の人たちと交流を持てるようなマチになってくれたらいいと思います。

弟子屈中学校 ３年
那須 喬君

弟子屈は自然が多く、緑に囲まれていて、水がおいしい、いい町です。自然が多いため、道路にシカなどの動物が飛び出してくることもありますが…。また、市街地を離れるとお店が少なくなるのは不便ですね。

「弟子屈町」が、なくならないでほしいので、人口がもっと増えたらいいです。

弟中生も町の人口を考えています

弟子屈中学校３年の中野湧層君と大井美侑さんが、かべ新聞のテーマとして弟子屈の人口問題を取り上げました。

２人は原先生へのインタビューを行ったほか、人口問題フォーラムへも参加し、熱心に聴き入っていました。

－かべ新聞のテーマに、弟子屈の人口問題を選んだ理由は？

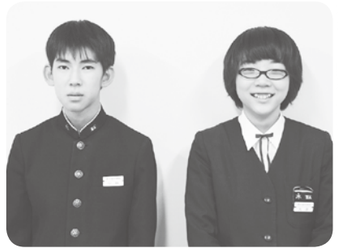
弟子屈の人口が減っていると聞いたので、自分たちでもっと調べて知りたい、周りにも知らせたいと思ったからです。

－取り組んでみた感想は？

思っていたより深刻な状況で、大変な問題だと思いました。

－今後について考えたことは？

私たちは中学生なので、できることは限られていますが…。例えば、部活動などで活躍して弟子屈が注目されるようになれば、もっと人が集まってくるのではないかと思いました。



左から中野君、大井さん

弟子屈の力、町民の力を上げて

弟子屈町長　**徳永　哲雄**

わたしたちのマチのことだから
一緒に考えていきましょう
自分たちで選んでいきましょう
未来に明かりをともしていきましょう
そして
このマチで生きていきましょう

人口が減ってきて、経済にもいろいろな影響が出ています。また本町の二大産業、観光と農業も厳しい局面を迎えています。そのような中で、本町がいかにしてこの豊かな自然環境を生かしながら活性化していけるか。本町の良いところを、どう伸ばしてまちづくりをしていくか。いかにこの地を選んでもらえるか…。皆さんに町政に参画してもらって、本当に住んでよかったなと思えるマチ、安全で安心して暮らせる社会をつくっていきたいと思います。

まずは、地域で子どもを育てる社会。本町の少子化も進んでいます。若い方々が結婚して、子育てがしやすいような環境をどうつくるかが課題です。

もう一つは福祉の関係。現代は、親を子どもたちが見る状況ではなくなっています。夫婦２人で子どもが２人いないという状況下では、他人の親であっても自分たちの親としてみんなで見ていく必要があります。そうしたことをしっかりと確立していかなければなりません。

そのためには、弟子屈の力、町民の力の二つを上げていく必要があります。

子どもたちが元気で活発に活躍する、お年寄りも安心して暮らすマチ。そういったことをしっかりと進めていけば、弟子屈の力、町民の力がアップしていくのではないかと思っています。

問い合わせ先／役場まちづくり政策課政策調整係☎４８２-２９１３(課直通)